

Audio Accessory

季刊・オーディオ アクセサリー

2019 WINTER 175

TAOC

AT アイシン高丘株式会社

オーディオアクセサリー銘機賞 2020 グランプリ受賞



Grand Prix
(グランプリ)

TAOCの整振技術の集大成オーディオラック
ASR IIIシリーズの魅力



AA誌の注目記事は
WEBでも楽しめます!

タオックの整振技術の集大成 中核シリーズがここに大幅刷新

本年度の「オーディオアクセサリ銘機賞2020」にて最も高い評価を獲得したオーディオラックは老舗ブランド、タオックであった。新たな中核ラインとして登場した「ASRⅢシリーズ」が見事に「グランプリ」に輝いている。同シリーズは最高峰のCSRシリーズで投入された新たな制振、整振技術を惜しみなく投入。アルミフレームを基本に、スーパーハイカーボン鋼鉄を随所に配置した新たな連結機構を採用。タオックが長年培ってきた経験と新たな技術が見事に融合した新時代のオーディオラックがここに誕生した。

5層構造のハニカム棚板と 進化した支柱ジョイント部



Text by
井上千岳
Chitake Inoue

photo by 田代法生

TAOCのラックの中ではCSRを頂点として、これに次ぐシリーズがASRである。従来のASRⅡから今回はASRⅢへとバージョンアップされ、さらに性能の向上を図っている。

棚板は鑄鉄粉入りのハニカムコアを高密度木質ボードと硬質メラミンで挟んだ5層サンドイッチ。これをアルミダイキャスト製のフレームに、スパイクを介して乗せる形である。いずれもこれまでと変わりはなく、棚板が直接支柱に接触するのではなく、フレームが支柱で固定されるところがポイントのひとつになっている。

リファインされたのは支柱のジョイント部分で、スペーサーを挟んで結合するこれまでの形をさらに発展させたものとなっている。ジョイントはスーパーハイカーボン鋼鉄製で、これとカーボン鋼鉄のスペーサーによってフレームを挟む構造がベースになっている。種類の異なる鋼鉄とアルミという

3種類の金属がここで接するため、振動モードの違いによって共振が分散・解消される仕組みと考えている。床からの振動もそうだが、棚板に乗せた機器からの振動の方も影響が大きい。これに対する確



Grand Prix
(グランプリ)

TAOC ASRⅢ series

オーディオラック

写真のモデルは3段式「ASRⅢ-3S-NS」

(シルバーメタリック・¥140,000/税別)

※ブラックメタリック仕上げもラインアップ

●フレーム：アルミダイキャスト ●支柱：アルミ ●支柱構成部品：天キャップアッシー＝スーパーハイカーボン、ジョイントアッシー＝スーパーハイカーボン、スパイク&スパイクカップアッシー＝スーパーハイカーボン ●棚板：5層構造ボード(500W×22H×450Dmm) ●質量：28kg ●耐荷重：100kgまで ●取り扱い：アイシン高丘(株)



芯が強く腰が落ちて、安定感が極めて高い 経験と丹念な改良からでき上がった完成度

フレームと支柱の仕上げは、シルバーまたはブラックのメタリックである。構成は1段から2段、3段と積み重ねてゆくことが可能で、耐荷重は1段当たり100kgとなっている。ただし5段では全体で400kgまでに制限される。

実な制振作用を考慮した構造だ。支柱の最上部では、やはりスーパードライカーボン鑄鉄製の天キヤップを被せる形になる。また底部はスパイクになっていて、同じ素材のカップに嵌まって安定する。この構成を全体的に見ると、底部とフレームの2カ所ですパイキが使用されている。つまり振動遮断作用が二重に利いているということ、この点で従来のASRR IIに比べると、振動に対する配慮がいつそう入念になったように思われる。大幅な進化と言っている。

もうひとつ、ASRR IIではフレームに制振シートが装着されていたが、本機ではこれを見直して特殊ダンパーとしフレームに貼っている。振動を熱エネルギーに変換することで、フレーム自体の響きを整えるという。

基本セットをベースに、追加ユニットを足してカスタマイズすることもできる。支柱の長さは4種類用意されているので、使用機器に合わせて選ぶことも可能。さらに大型のアナログプレーヤーに対応するため、専用のボードユニットも開発された。その他キヤスタ1セットも使用できる。

芯が強く腰が落ちて、安定感が極めて高い。それでいて音に曇りやこもりがないのは、長い間の経験と丹念な改良からでき上がった完成度というものである。実際に盤石という印象が強く、信頼性に風格さえ感じさせるものがある。ピアノのタッチは申し分なく明快で、しかもエネルギーに満ちている。ことに低音部の出方は強靱な量感に溢れ、がっしりした和音が深いところまでにじまない。そのエネルギーは比類がないと言っているほどで、表現の多彩さ、陰影の深さにも目をみはるものがある。再現のスケールが圧倒的だ。

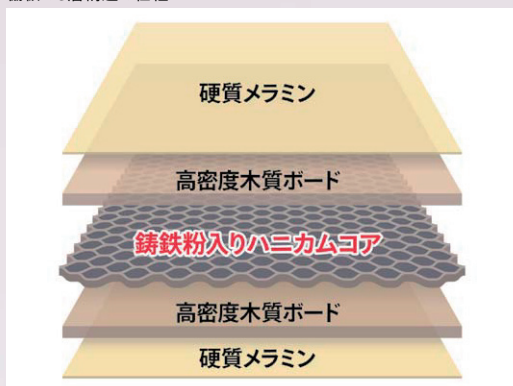
マドリガルは一人一人の声の存在感と、その質感の瑞々しい生々しさが出色だ。余韻が濁らないためハーモニーの線が明確で、音楽の進行がきれいな流れになって聴こえてくる。汚れないアンサンブルの心地好さが、リアルな音像となって実感されるのである。チェロ・コンチェルトでは、巨大なダイナミズムが眼の前に現れる思いがする。独奏チェロは濁りと歪みがないため、滑らかで生き生きとしている。オーケストラもフォルテがきれいに分離して描き出され、低音弦やティンパニーが弾力的でそれが陰で音楽に生命力を注ぎ込んでいるのがわかる。音の外側、あるいは音場の背後にももうるさいものがなく、トゥワッティでは呆れるほどの鮮やかさが大変印象的である。

この試聴で特に使用してみたマラー「第3番」は女声と児童の各合唱にコントラルトが入るが、そのどれもが目の覚めるような明るい透明感に彩られている。低域の厚みが利いているのだが、こもりがないため高域の端までその効

果が貫かれるのである。奥行きが深さにもぞくぞくする。ジャズもライブを彷彿とさせ、立ち上がり下がりの速さがその

の秘訣と言ってよく、弾みのよさが生きた躍動感を引き出している。音の出ってくる次元が違うという印象さえ受けるのである。

棚板の5層構造の仕組み



「ASRⅢシリーズ」の連結部の仕組み



オプションで最上段に設置するアナログプレーヤー対応ユニット「ASRⅢ-AD-NB/NS」(¥60,000/税別)もラインアップ。サイズは700W×530D×33Hmmで、カラーはブラックメタリックとシルバーメタリックの2種類から選択が可能



アルミダイキャストのフレーム部。振動を熱エネルギーに即座に変換する新素材の制振シートでチューニング

福田雅光 (審査委員長)

Masamitsu Fukuda



SN比と解像力が改善 安定した中立バランス

タオックの中核的なオーディオラック、ASRシリーズIIがバージョンアップされASRⅢに進化した。铸铁粉入りハニカムコアを軸にしたサンドウィッチ構造のボード部は継承されているが、アルミフレームを採用してデザイン性を改善し、支柱の連結部にはスーパーハイカーボン铸铁によるジョイント、ボードは点接触構造による支持。また脚部は高さを調整可能なスーパーハイカーボン铸铁のスパイクとカップ構造が採用されている。比較すると、新モデルは高音の濁りやクセが減少して、SN比と解像力が改善され安定した中立バランスを示している。

生形三郎

Saburou Ubukata



振動の分離効果が著しい 盤石で静粛性が高い音質

振動モードの入念な研究から導き出された、新開発の支柱パーツや特殊ダンパーシートによる適切な振動コントロールによって、従来モデルからの着実なブラッシュアップが実現されている。また、棚板と枠組みとの接点がスパイクによって支えられることによる振動の分離効果が特に著しく、下位モデルの一体型タイプとはグレードを異にする効果を実現していることも印象的である。それらは、コンポーネントから、どっしりとした安定感や、明瞭な輪郭表現を引き出す。不要な振動や共振が引き起こす、音の詰まりや滲み、歪み感を取り除いてくれるのだ。铸铁粉入りハニカムコア採用のサンドウィッチ構造棚板の恩恵も大きいのか、磐石かつ静粛性が高い。

炭山アキラ

Akira Sumiyama



“整振”技術がさらに深まる 音楽を楽しく表現するラック

タオックのラックは、本当に細かな“整振”チューニングで、いろいろなキャラクターの製品を出してくるのが面白い。ASRⅢは、市場で好評を得たASRⅡの後継で、アルミ合金製の支柱とフレームの間にスーパーハイカーボン铸铁のスペーサーを挟み、固有のキャラクターを分散させるほか、フレームの裏面に特殊な防振シートを貼り付けることで、振動を素早く熱エネルギーに変換しているのも注目点だ。この手のチューニングは、とかくやりすぎると音がやせてしまう傾向があるが、そこはさすがタオック、必要最小限という感じでまとめられている。音は前作比で明らかにS/Nが向上し、非常に生真面目で、なおかつ音楽を楽しく表現する能力に長けている。“整振”技術の深まりを感じさせた。

「オーディオアクセサリ銘機賞2020」 グランプリ受賞モデル

TAOCの新型オーディオラック

「ASR-Ⅲシリーズ」

審査委員が語る
その魅力



Grand Prix
(グランプリ)



鈴木 裕

Yutaka Suzuki



演奏そのものと向き合える ハイファイ性能の高い音質

ASRⅡシリーズがⅢに進化した。铸造アルミの棚のフレーム自体には変更ないが従来の整振シートを見直し、特殊ダンパーシートを新たに採用。振動エネルギーを熱エネルギーに変換する。支柱の仕上げはⅡでは多角形的な形状だった断面を円形にし、化粧シヨット仕上げに。柱の一部にスーパーハイカーボン铸铁ジョイントを採用して棚同士のインシュレートを強化させたようだ。棚板自体の、铸铁粉入りでハニカムコアを採用したサンドウィッチ構造は変更されていない。音はⅡ型の音を豊潤で音の色彩感に優れた出来のいいイラストに例えるならば、Ⅲ型ではリアルな写真そのもの、演奏そのものと向き合えるハイファイ性能の高いものになった。

林 正儀

Masanori Hayashi



ニュートラルで開放的な音質 音場全体が高S/Nで清々しい

タオックの新しいラックシリーズの中では上位となるモデルだ。ASR2からの改良点を見ると、アルミ支柱の上下にスーパーハイカーボン铸铁のカップとジョイントを装着。さらに天板枠の4隅に貼ったダンパーシートとわかるのだが、やはり貢献度は前者が高そうだ。フットも最高峰のCSRとまったく同じになった。振動が棚板に残らないためか、音場全体が実に高S/Nで清々しい。タッチが緻密で柔らかく、弱音のニュアンスがくっきりと浮かび上がることや、前作で感じられた高音域のきつさがなく、強いアタックでピークが抑えられることもない。ニュートラルで開放的なサウンドが本作の特徴。コンポの性能を十二分に引き出す意欲作だ。